

片山洋子作 「仲間」

効果音 (終業のチャイム。ガヤ)

三郎 おい、修平、今日も行こうぜ。

修平 ゲームセンターかよ、三郎。オーケー。ああ、安男、高弘と勇二どうした？

塚原安男 ん？ ああ、今、職員室に呼び出したよ。あいつら、昨日パーマかけたから。

三郎 へえ。高弘たちもやるな。おれも今度やってみるかな。

修平 よせよ。今、目立つことすると、ヤバいぜ。それでなくても、この間のことで先公たちのおれたちを見る目つきが違うんだからんさ。

ナレーション 三郎、修平、安男、高弘、勇二は青春中学の2年生。彼らは1年生の時からの同級生で、2年になってクラスが分かれてからも、自他ともに“親友”“仲間同士”と認める仲です。夏には河原でテントを張り、飯ごう炊飯を楽しむ。秋には互いの家でレコードを聴いたり、ギターを弾いたり、何をやるのも一緒に、クラスでも「五人組」と冷やかされるほどの仲良しの少年たちでした。ところが2年になって、ある事件が起こったのです。

安男 ああ、どうしたらいいんだろう。

修平 どうしたんだよ、安男。浮かない顔してさ。

安男 おれさ、先輩からカンパ集めるように頼まれちゃったんだよ。

三郎 ええ？ なんてお前に?! なんのカンパなんだ？

安男 同じクラブだったんだよ。そこでよく面倒見てもらった人でさ。なんの資金かは分からないけど。

修平 それはでもヤバいぜ。カンパなんて知れたらさ。

三郎 よし、分かった。おれに任しとけ。クラスのみんなから100円ぐらい集めりゃ、なんとかなるさ。

安男 本当？ でも大丈夫かなあ。

三郎 お前だって、先輩の頼みじゃ断れないだろう。先輩の顔を立てなきゃ悪いしな。だ往生部大丈夫。先生に分からないようにやるさ。そう心配するなって。友達じゃないか。

安男 (まだ心配そうに)うん。

ナレーション 数日後、安夫の心配は的中しました。カンパのことを先生に漏らしたクラスメートがいたのです。

先生 いいことと悪いことの区別はつくでしょ？ 一体だれが集めたの？

三郎 (少し間)おれです。おれがやったんです。

安男・修平 三郎！

先生 何に使うお金だったの？

三郎 それは言えません。

先生 どうして？ 君が使うはずだったんでしょ？ 言えないっていうことは、本当は君が使うんじゃないってこと？

三郎 言えないったら言えないんだ。とにかくおれがやりました。すみません。

先生 そう…。じゃあ、そういうことにしておきましょう。まあ金額が少なかったから学校のほうでも大げさにしなかったけど、こういうことは、一つ間違えれば、取り返しのつかない道に引きず

り込まれることになるんですからね。もう二度としちゃダメよ！

三郎

(小声で)はい。

ナレーション

これが、その事件でした。この日以来、彼らは学校中の先生たちから、以前とは少し違う目で見られることになったのです。その特別な目は、彼らを孤立させ、一層グループの団結を強めることになりました。

三郎

おい、安男。5時間目はつまんねえから、フケてゲームセンター行こうぜ。

安男

やべえよ。今度めっちゃかったら、おやじら呼び出しもんだぜ。

効果音

(ゲームセンター内)

修平

構うこたあねえよ。どうせおれたち、白い目で見られてんだから。おいサブ、高弘と勇二も呼んでこいよ。

三郎

よきた！

修平

行くぜ、雄二。プシューン、プシューン。おっと、よっ、プシューン、プシューン。

安男

それプシューン、行け行け、高弘をぶつつぶせ。プシューン。

三郎

おい、ちょっと向こうを見ろよ。あいつら、東南中学の生徒だろ。さっきからおれたちにガンつけてるぜ。

効果音

(ケンカ)

安男(モノローグ)

どうしよう。大変なことになったぞ。あ、三郎！

三郎

うおおー！ い、いてえ！ うー、チキショー！

効果音

(パトカーのサイレン)

東南中学生徒

やべえ、逃げろ！

修平

さ、三郎！ 大丈夫か？

三郎

うっ、腹が、腹が…。

警官

警察だ。何をしてるんだね？ 君たちはどこの生徒だ？ 君も仲間なんだろう？

安男

え？ おれ、いや、僕は知りません。関係ありません。(走り去る)

ナレーション

安男は夢中でその場から逃げました。やっと家に駆け込んで、しばらく胸の動悸^{どうき}が収まりませんでした。それから夕食の時も、勉強していても、あのおなかを押さえて座り込んだ三郎の姿が頭から離れなかったのです。

安男(モノローグ)

(エコー)おれはなんて薄情な人間なんだ！ あれほどおれを助けてくれた三郎を見殺しにして。しかも「関係ない」だなんて…。ああ、みんなはおれのことを仲間だと思ってくれていたのに、おれは、おれは、自分のことしか考えられなかった…。あしたからもう学校へなんか行けないよ。みんなに会わせる顔がない。なんて言われるか…。三郎は大丈夫だろうか。もしものことがあったら…。ああ、どうしたらいいんだ?!(多重エコー)

ナレーション

安男は、仲間を裏切った罪の重さに胸が張り裂けそうな思いでした。自分の持っていた友情とは、こんな薄っぺらなものだったのかと、自分自身を疑い、軽蔑^{けいべつ}さえしたのです。次の日――。

安男の母親

安男、いつまで寝てるの？ 遅刻するわよ。

安男

今日休むよ。ちょっと頭が痛くて。

母親

あら、昨日の夜、バタバタ帰ってきたと思ったら、それっきり静かだったから、寝てたんじゃないの？ 風邪かしら？ じゃ学校に連絡しておくわね。

安男

ああ。(モノローグ)学校なんて行けないよ。もうダメだよ！

ナレーション その日の午後、安男が独りで部屋に閉じこもっていると――。

母親 安男、修平君たちがお見舞いに来てくれたわよ。

安男 (気まずそうに) え？

修平 おい安男、三郎は今警察だ。お前を見損なったぜ。

安男 悪かった。赦^{ゆる}してくれ。おれ、気が小さくて、本当は弱虫なんだってつくづく分かったんだ。カンパの時も、学校帰りのゲームセンターも、強がってないとみんなから置いていかれそうな気がして…。

修平 いまさら何を言ってるんだよ。お前の言い訳を聞きに来たんじゃねえや。三郎をを見殺しにして逃げるなんて、お前、それでも仲間かよ！

効果音 (ボタンとドアの閉まる音)

安男(モノローグ) ごめん。本当にごめん。だけど、おれ、おれ、どうしたらいいんだよ?!(泣き崩れる)

ナレーション その夜、打ちひしがれた思いで、ラジオのスイッチをひねりました。これまではきれいに忘れていたのですが、いつか聴いた基督教の番組を、ふと思いついたのです。

効果音 (チューニングの音。ピタリと合う。)

ラジオ牧師 「人がその友のために命を捨てる、これほど大きな愛はありません。」という言葉があるんです。あなたはどう思いますか…?(FO)

安男 (オーバラップして)「友人のために命を捨てる、これほど大きな愛はない」、そりゃそうだよ。でも、そんな愛があればの話だよな。人間の心には、そんな愛なんて…。おれがそのいい例さ。

ラジオ牧師 神様からの手紙である聖書に、こう書いてあります。「正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」(ローマ人への手紙 5:7-8)

安男(モノローグ) 「罪びとのために死ぬ」だって？ そんなことしたって、なんの得にもならないじゃないか。キリストってのは何を考えてるんだ？

ラジオ牧師 あなたは、こんな気持ちになったことがないでしょうか？「私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行っているからです。私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」(ローマ人への手紙 7:15、24)

安男(モノローグ) おれ、おれだよ！ 今のおれの気持ちそのままだ。なんで知ってたんだよ！

ラジオ牧師 そうなんです。だれもが、このみじめさ、むなしさを持っているのに、それを押し込め、その解決から目を背けているのです。ある人は娯楽で、ある人はお酒や仕事で。表面だけ繕って、カッコよく装って、“おれは大丈夫”っていうフリをして生きている。でも心の中の醜さは少しも消えないで、だんだん苦しくなって――。ひょっとしたら、それが今のあなたではありませんか？ だからこそ、神様はイエス・キリストを私たちにくださったんです。私たち罪びとのために、ご自身のただ一人のみ子を、身代わりとして神の裁きである十字架に付けられ、私たちを救い出してくださいました。ここに神の愛があるのです。

安男(モノローグ) イエス・キリストって、すごいんだな。おれ、知らなかった。こんな愛があるなんて…。おれも、おれのことも救ってくれるのかな。だけど、だからって明日から生活が変わるだろうか？ みんなからの冷たい視線は目に見えてる。やっぱりダメだ。そんなの気休めだよ。

ラジオ牧師

更に聖書は言います。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(コリント人への手紙第二 5:17) そう、すべてがです。あなたは今、自分の過去に縛られていませんか？ 自分は変わりたいと願っても、変われないと悩んでいませんか？ でも、どんなにもがいても、自分の力ではできませんね。イエス・キリストを信じることによって、神様の力で新しく作り変えていただくのです。いかがですか？ あなたも、今、イエス様のもとに来ませんか？

音楽

(賛美歌「いさおなき我を」)

ナレーション

安男は、いつしか流れ出る涙をぬぐおうともせず、じっと聴き入っていました。その時彼は、イエス様はその涙の一滴一滴で自分を洗い清めて新しくしてくださることを、かすかに予感していたのでした――。

<完>